日刊 動労千葉

83. 7. 16

No. 1392

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

ニュースの焦点 NO.12 '83-7-16

巡航ミサイル・トマホーク装備

戦艦ニュージャージーの8月寄港を許すな

昨日、反動中曽根は「戦艦ニュージャージーの日本寄港を受け入れる」旨を正式に表明した。これは、五月以来の太平洋艦隊司令官や米政府のくり返してきた「戦艦ニュージャージーと原子力空母カールビンソンを新たに太平洋艦隊に配備する。八月にも佐世保と横須賀に寄港したい」との発言に日本政府として積極的に承認＝歓迎の表明を行ったものであり、実に恐るべき軍拡ー侵略ー核戦争挑発への攻撃を一挙にエスカレートするものであり、絶対に許してはならない。

動く核・侵略基地＝戦艦ニュージャージー

今日、世界の最大の焦点＝火点となっている空母カールビンソンと戦艦ニュージャージーの太平洋配備とは一体どういうものなのか。とりわけ、ニュージャージーがあえて八月日本寄港（カールビンソンも十月寄港を通告してきている）を強行するという事は何を意味するものであろうか。

① 恐るべきレーガンの戦争挑発政策

周知の通り、カールビンソンとは、一九八二年三月に建造された世界最大（八一六〇〇トン）で最新鋭の米原子力空母であり、常時核弾頭装備のミサイル、核爆雷、ほぼ全機種にわたる最新鋭艦載機約九十機で武装した文字通りの動く核攻撃基地である。

そして、戦艦ニュージャージー（四五〇〇〇トン＝写真）とは、核戦略（実際に使える核を）と海軍大増強（海軍六百隻体制）を柱とするレーガン戦略のシンボルとして、初めて戦域中距離核・巡航ミサイル＝トマホークを装備した最新鋭の攻撃艦として太平洋に配備されるものである。

この2艦が同時に太平洋とりわけ日本周辺に配置され、佐世保・横須賀を根拠地とすることによって極東の対ソ連核配備は一挙的にエスカレートし、ヨーロッパでのパーシングⅡ（中距離核ミサイル）や巡航ミサイルの地上配備と呼応しての極めて挑発的な対ソ核包囲の一方の軸が日本を足場にして形づくられることを意味する。

② 「トマホーク」装備の兇暴な核攻撃戦艦

戦艦ニュージャージーの兇暴性は、何といってもその装備＝巡航ミサイル・トマホークに示されている。

「トマホーク」とは、長さ5.5メートル、直径53センチの翼をもつミサイルで、内部に精巧なコンピューターが内臓され、あらかじめおぼえこんだ地形をレーダーの眼をかすめて水面・地表・障害物のかげをぬうように飛行し、正確に目標物に到達するというものであり、今日の核戦略の最大の焦点をなすものである。核および通常の弾頭の規模（広島型原爆の16倍の破壊力）や航続距離によって3種類に分類されるトマホークを各種合わせて32基を装備しているのがニュージャージーなのである。

③ 世界最重装甲の〝なぐり込み〟戦艦

更に、注目すべきは、ニュージャージーの装甲は、舷側で三〇七ミリ、司令塔で四三九ミリというケタハズレの超硬超厚の重装甲となっており、あの話題となったエグゾセミサイルを一度に十発くらっても平気という怪物なのである。現に、改装前でも朝鮮やベトナムへの侵略戦争に際して、まっ先にきりこんでいったアジア人民虐殺の血ぬられた犯歴を刻みこんでいるのである。

こんな血ぬられた兇暴な戦艦をどうしてやすやすと寄港させられるだろうか。

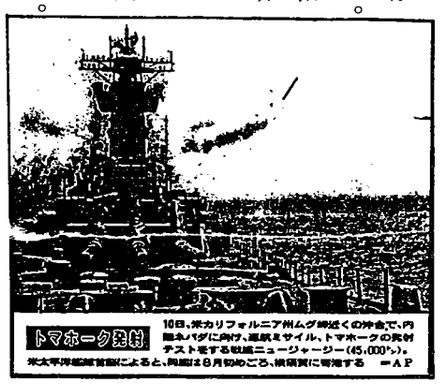
反戦・反核・三里塚闘争への露骨な挑発＝八月佐世保・横須賀寄港を阻止しよう！

そして何よりも、レーガンと中曽根が、わざわざ八月十六日～二十日という時期に、寄港を強行させようとしていることの悪どさを見ぬき、断固としてこれをうちくだかなければならない。

八月、全世界・全日本で反戦・反核の人民の願いと闘いがくりひろげられ、軍事大国化攻撃の要である三里塚軍事空港の二期着工攻撃の激化＝パイプライン供用開始、という時期に合わせて、ニュージャージーの寄港強行、更に十月十一月へとカールビンソン空港、レーガン訪日等々・・・・露骨な挑戦をかけてきている。

今こそ、三里塚を基軸に、この戦争への道を断ちきるために総決起しよう。

7・31集会、8・8闘争を成功させ、寄港阻止・二期粉砕へ前進しよう。



トマホーク発射　10日、米カリフォルニア州ムグ岬近くの沖合で、円筒ネバダに向け、巡航ミサイル、トマホークの発射テストをする戦艦ニュージャージー（45,000トン）。米太平洋艦隊当局によると、同艦は8月初めごろ、横須賀に寄港する　＝AP

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！